

各校区の状況及び課題等について

【南区の現状と課題】

・高齢化率が全市平均より高く、すべての校区において今後の地域における高齢者支援についての関心も高く、課題を感じている状況にある。
 ・特に、高齢者支援に限らず自治組織活動の担い手の高齢化、および今後の担い手不足は深刻な課題となっており、校区全体で高齢者を支援する体制づくりを進めている校区もあり、必要に応じ区や社協が共に支援を行っている。
 ・丘陵地が点在しており、高台に居住する高齢者は、外出が困難になりやすく閉じこもりの問題や移動手段の問題があるため、一部地域では、西鉄のコミュニティバスの運行や企業の協力を得た買い物支援バスの運行も始まっている。
 ・閉じこもりぎみの高齢者が多いということについては、丘陵地の有無に限らずすべての校区で課題を感じており、公民館まで出てこられない高齢者のために身近に集える場所の必要性を感じている校区も多い。
 ・在宅医療・介護連携の推進においては、南区は長年「在宅医療部会」を通し、三師会を中心に多職種連携の意識が高く、顔の見える関係づくりが育まれており、ネットワーク構築に積極的である。今後は、医療依存度の高い患者の在宅支援等、在宅医療・介護における課題の解決に向けた検討も行っていく。

【平成27年度 高齢者地域支援会議(健康なまちづくり懇談会意見交換)において出された校区課題等】

●区で検討が必要と思われるもの

○地域事業や地域活動への参加啓発(19)	(再掲) ・地域事業・地域活動への啓発・仕組みづくり(2) ・若い世代(5) ・団塊の世代(2) ・関心がない方・町内会未加入者(4) ・地域活動への担い手確保(6)
○身近に集える場所の確保(12)	
○閉じこもり・訪問拒否等の高齢者への課題(外へ連れ出す手立てや支援について)(8)	
○移動(外出・買物・送迎等)支援の課題(6)	(再掲)・企業・事業所等との協力(2) ・坂が多い地域への生活支援・環境整備(4)
○空家の活用について(1)	
○民生委員との連携(個人情報課題)(1)	
○コミュニティバスの継続化(1)	

●各校区の状況及び当日出された課題等(1/2)

校区名	高齢化率(H27.3月現在)、校区の状況、個別支援会議等で把握された地域課題等 土砂災害警戒区域の有無	当日出された課題等	備考
三宅	・18.6%, 17番目。6自治会が25%を超え、うち大橋3丁目1区は35%。人口は南区で2番目に多く、高齢者数は南区で最も多い。大橋駅が近いことで生産年齢人口が多く外国人も多い。 ・土砂災害警戒区域:和田3・4丁目	・外へ出てきてもらうためのきっかけづくりの課題 ・若い人の自治会活動への参加 ・町内単位での訪問活動の充実 ・高齢者の外出支援(企業からバス・車を借りるなど) ・地域カフェ ・気軽に集まれる場所が欲しい ・要援護者の把握	・衛生組合主催「歩こう会」開催予定 ・あいさつ運動や町内清掃活動での交流を図っている
花畑	・24.5%, 9番目。戸建が多い校区。交通アクセスが悪く、大橋へは1時間程度かかる。 ・土砂災害警戒区域:柏原1丁目, 屋形原4丁目	・担い手不足, 若い人の加入ない(交通アクセス悪く住みにくいので若い人が離れる) ・個人情報得にくい ・身近なところでの取り組み(場所の問題)	今年度は公民館立て替え中
玉川	・13.8%, 南区で1番低いが、高齢者数は年々増加。平地で交通の便が良く、生産年齢人口の割合が高く転勤族も多い。	・昼間の独居高齢者などの情報収集 ・世代間交流の場 ・公民館事業への参加 ・誘っても出てこられない方への対応, 男性参加者を増やす	26年度から校区社協が復活, ふれあいネットワーク活動を始めたところ
西高宮	・17.2%, 20番目。2町が30%を超える。人口は区で1番多く28町内あり、高齢者人口は2番目に多い。丘陵地の4町内で今秋から買い物支援バス運行予定。 ・土砂災害警戒区域:平和1. 2丁目, 市崎2丁目, 高宮4丁目	・孤独, 閉じこもりの方を外に引き出す手立て ・町内単位で集まる場所 ・集合住宅の課題 ・シニアクラブ会員を増やす ・認知症の方への対応, 認知症予防	・公民館でのカフェ開始 ・買い物支援バス運行について自治協議会で毎月協議中。
日佐	・18.7%, 16番目。3町が20%を超える。日佐4丁目2区にある事業所を活用した「おさカフェ」が3月から開始, 毎月第2水曜日に開催。	・参加者の固定, 男性を連れ出す工夫 ・認知症高齢者が安心して徘徊できるまちづくり ・民生委員との連携必要 ・「おさカフェ」が校区内にいくつかあればよい ・介護保険事業所などとのつながりが必要	「おさカフェ」の運営は現在区社協が主催。今後は地域での自主的な運営に移行予定。
宮竹	・17.9%, 19番目。校区内で行政区が分れている(一部は博多区)。古いアパートも多く単身世帯多い。	・校区行事に関心がない ・参加者の固定化, 男性参加者少ない ・集合住宅の高齢者把握の課題 ・交流や人の付き合いが苦手な人をどう見守るか, 嫌がる人をどう支えるか	災害時要援護者情報提供に関して, 昨年度新覚書を締結した。
大楠	・15.1%, 3つが25%を超え, うち大楠3丁目6区は38%。昨年度は全22町のふれあいネットワークで見守りマップ作成(モデル事業B)。交通利便性良く, 生産年齢人口が多く, 単身世帯の割合が高い。	・身近な場所でのサロン開催 ・高齢者が参加しやすいイベントを企画 ・参加者の固定化, 出てこない方の力を借りたい ・集合住宅が多くお互いを知らない ・地元の人が少ない→住民把握が課題 ・引きこもり, 拒否する方へのアプローチ ・子どもの時から地域にふれあう機会づくり	
若久	・18.8%, 15番目。2町が30%を超え, うち野間4丁目2区は41%。高齢化率が高い町内では課題を持ってふれあいサロン活動等を行っている。公民館周辺は高台で買い物, 病院受診等の課題あり。 ・土砂災害警戒区域:高宮5丁目, 若久4丁目, 野間2・4丁目	・サロンの参加者を増やす工夫 ・公民館から遠い人が身近に集える場を増やす ・集合住宅の見守り ・ボランティアの募集, 若い世代の参加 ・各団体との共働, 情報共有 ・町単位で高齢者支援を考える必要あり	
老司	・27.5%, 6番目。市営, 県営団地あり, 独居高齢者も多い校区。 ・土砂災害警戒区域:老司4丁目	・外に出てこない方への手立て ・担い手確保, 若い世代の把握 ・メンバーの固定化, 新メンバー呼びかけ ・認知症の方の見守り, 対応	

各校区の状況及び課題等について

●各校区の状況及び当日出された課題等(2/2)

校区名	高齢化率(H27.3月現在)、校区の状況、個別支援会議等で把握された地域課題等 土砂災害警戒区域の有無	当日出された課題等	備考
長住	・29.9%, 3番目。4自治会が35%を超える。公民館が西長住校区にあり利用しづらいとの声もある。	・高齢化の課題だけではなく障がい者も多い ・個人情報の問題 ・公民館以外にも集う場所が必要 ・近所づきあいの課題(亡くなった等の情報が伝わらない) ・メンバーの固定化	
筑紫丘	・23.3%, 11番目。若久団地は48%と高いが、現在立て替え中のため今後高齢化率は変動するものと思われる。丘陵地では、買い物など外出、移動の課題あり。 ・土砂災害警戒区域:筑紫丘1・2丁目, 南大橋2丁目	・地域活動への参加促進(担い手不足) ・行事に参加されない方をいかに連れ出すか ・健康づくり, 体を動かす ・共助の充実, 災害避難訓練の充実 ・集う場所がほしい, 町内でのつながりの強化 ・元気な高齢者の活動の場を子育て支援へ ・料理教室など食べて, おしゃべりできる交流の場を持つ ・スーパーがなくなり買い物難民が増えている	
西花畑	・25.0%, 9番目。65歳以上の人口は区内で3番目に多い。自治会別高齢化率は14%から33%までと差がある。 ・土砂災害警戒区域: 桜原2・4～7丁目, 大字桜原	・参加者を増やし参加しやすい場を目指す ・身近な集会所での活動が理想(公民館遠い) ・声をかけあう校区にしたい ・地域活動の活性化(若い世代の母親, 男性参加) ・高齢者が持っている過去の経験を活かし, 技能を若い世代へ伝承する	
弥永	・31.5%, 区内で一番高い。昨年12月から「お・も・い・や・りネットワーク事業」を活用して、認知症の方にも対応した見守り体制づくりと徘徊高齢者のネットワークづくりを進めている。	・事業参加者が少なく, 声掛け, 呼びかけが必要 ・組長など小地域ごとに知り合いになり情報共有する ・元気な高齢者だけではなく, 町内会, 子ども会とも協力し, 寝たきりの人へも関わり交流する。 ・引きこもり外出しない方への対応	事業を進める中で, 小・中学校での認サボ講座実施, 地域カフェ開設に結びついた。
東花畑	・31.2%, 2番目(平成26年12月までは1番高かった)。戸建中心で今後も確実に高齢化が進む校区であるが, 3年間のモデル事業を経て「ふれあいネット・5愛」推進会として自主的な活動を継続している。 ・土砂災害警戒区域:野多目5丁目, 屋形原5丁目	・1軒1軒声をかけて外出を促すことが大切 ・引きこもりの人をいかに連れ出すか ・10年後の担い手...今から働きかけていく ・交通の便が悪い, 坂が多い:移動手段の確保 ・タクシー会社が校区内に2つある。買い物支援, 移動支援に利用・協力できないか ・カフェで高齢者と若い世代の交流ができるとよい	
長丘	・18.3%, 18番目。集合住宅が多い。鴻巣山沿いの4町で買い物支援バス運行中。 ・土砂災害警戒区域:長丘2丁目, 長丘4丁目, 平和4丁目	・町内ごとの集いの場(公民館は立地的に通いが困難) ・参加者の固定化→いろいろな種類のイベント開催を ・昼間に支援できる人不足, リタイヤ組の参加を期待	6月から毎週日曜日に小学校でラジオ体操を開始。広く校区住民の参加を呼び掛けているところである。
西長住	・29.1%, 4番目。校区内で行政区が分れている(一部城南区)。長住団地は高齢者数多く高齢化率34%だが, UR, 長住校区と協力したふれあいネットワーク活動が活発に行なわれている。	・空き家の課題 ・男性参加者を増やしたい ・ネットワーク活動の輪を広げ, 声掛け, 見守りを継続していく ・カフェ活動の拡大, 充実(事業所との連携) ・負担にならない集い, 楽しく過ごせる場 ・自分自身の健康づくり ・高齢者が働ける場, 活動する場が必要 ・鹿助公園で世代を超えたイベント開催 ・死亡された方の情報が入ってこない	
弥永西	・22.6%, 13番目。サロン運営等のボランティアの高齢化, 担い手不足の課題あり。警弥郷地区から公民館へは距離があり参加しづらいとの意見あり。校区防災訓練に中学生が参加するなど独自の防災への取り組みは進んでいる。	・”ちよいボラ”のような生活支援グループが必要 ・よかドック健診勧奨, 認知症予防・認知症の方への支援 ・災害時の高齢者への対応 ・世代間交流事業を増やし担い手づくりを行う ・参加メンバーの固定化 ・引きこもりの方を連れ出す工夫として, 身近なところでのサロン開催	
東若久	・26.8%, 7番目。戸建中心で坂が多く外出困難な地域もあるが, モデル事業を経て「ふれあいネットワーク活動運営協議会」による自主的な取り組みを継続中。	・高齢者だけではなく若い世代も参加できる行事開催 ・参加者の固定化 ・坂が多い, 空き家の問題, 買い物をすることが遠い	
鶴田	・28.2%, 南区で5番目に高い。高齢者世帯2割以上。柏原東町内会では昨年度から買い物支援バスが月1回運行。 土砂災害警戒区域: 鶴田1～3丁目, 柏原1・2丁目	・坂が多い地域への買い物支援等生活支援の検討 ・公民館事業等への参加者が限られている。男性の参加者が少ない ・元気な高齢者に担ってもらおう ・交通の便が悪く, 外出できず閉じこもっている人もいる ・高齢者と子どもが関わって行ける環境づくり	
野多目	・22.5%, 14番目。昨年6月から「お・も・い・や・りネットワーク事業」を活用し, 災害時の避難支援のために町内ごとの日頃の見守り体制づくりに取り組んでいる。 ・土砂災害警戒区域: 和田2丁目, 野多目3・4丁目	・引きこもっている人を連れ出す手立て ・男性の参加(男性サロンをつくる) ・ボランティア不足 ・老人クラブ会員を増やす ・身近なところで集える場が必要(個人的に出かける場を増やす), 町内単位の集まり必要 ・あいさつ, コミュニケーションが大切	「おもしろネットワーク事業推進委員会」が自治協の構成団体となった。
高木	17.1%, 21番目。高木2丁目2区は40%。ふれあいサロンが校区内に4か所ありバランスよく配置, 民生委員が中心となって運営しているが, 担い手不足の課題あり。	・地域での見守り, 認知症の方の介護(ふれあいサロン, ネットワークの継続) ・孤立防止の対策 ・あいさつ運動 ・地域活動に参加しない人への対応(町内会未加入者へ会費強制徴収) ・ラジオ体操の復活(世代間交流, 事業参加促進) ・高木手足の会(生活支援ボランティアグループ)の充実	
大池	・22.7%, 12番目。自治会別では14%から31%と差があり, 校区内は坂が多く, 公民館開催のふれあいサロンには参加困難との声が聞かれる。 ・土砂災害警戒区域: 大池1・2丁目, 寺塚1・2丁目, 多賀2丁目	・坂道が多い事への道路環境整備 ・男性の参加者少ない ・坂が多く, 誘いにくい ・町内ごとに気軽に集まれる集会所があるとよい ・介護事業所など施設と連携したカフェの開設 ・コンビニと連携したカフェ開催 ・歩こう会の参加者を増やしていく(健康づくり)	
塩原	・14.9%, 24番目。古い戸建とUR, 新築マンションが混在。災害時の個別避難支援計画書を作成するなど防災については全市でもトップの活動を行っている。	・若い人に高齢者の現状啓発すべき ・ボランティア, 支援する人の不足 ・集合住宅, 外国人等支援困難な人の情報確保 ・集まれる場所づくり(公民館から遠い地域の行事参加の工夫)	
柏原	・24.2%, 10番目。2町内が30%を超える。交通の利便性悪くコミュニティバスが4月から本格運行開始。一部の町内で買い物支援バスも運行決定した。戸建, 集合住宅の他特養施設もある。 ・土砂災害警戒区域: 柏原1・3・4・6・7町名, 大字柏原	・コミュニティバスの継続化 ・関係者が情報共有する場が必要 ・子どもたちとも交流し地域のつながりを取り戻す ・高齢者も支える側として子どもを預かったり, 高齢者同士で支え合うという考え方も必要 ・孤立化防止(リタイヤした人をシニアクラブに勧誘する)	
横手	・16.6%, 22番目。戸建多く集合住宅少ない。社協と公民館共催で拡大ふれあいサロンを開催。介護劇の公演を経て毎月29日に「よこの手カフェ」を開催。	・社協, シニア, 衛連等, 団体間の繋がりを持つ ・若い人の参加少ない, 参加者の固定化 ・誰でも参加できる楽しい企画を考える ・子育てサロンに高齢者も参加し世代間交流を図る ・公民館以外の場でも集う場を確保する	